

# KIT\*MIKI

ON PAPER



(Instagram)



(WEBサイト)

三木町公式アカウント (Instagram) [https://www.instagram.com/kit\\_miki\\_kagawa/](https://www.instagram.com/kit_miki_kagawa/)  
香川県三木町魅力発信サイト (WEBサイト) <https://www.town.miki.lg.jp/kit-miki/>

三木町ふるさと会報紙 年2回発行

い  
ぎ  
万博!!



2025  
SPRING





主催：CRASSO 実行委員会

【瀬戸内の "モノづくり" を巡る旅】

四国最大のオープン  
ファクトリーイベント

CRASSO

## ■CRASSO とは? ~オープンファクトリーを軸とした地域観光イベント

ふるさと住民の皆さんは、「CRASSO(クラッソ)」をご存じですか?「CRASSO(クラッソ)」は、普段は見ることでできない「モノづくりの現場」を巡り体験するオープンファクトリーイベントです。

CRASSO では、瀬戸内の本質的な魅力を思う存分体験できる、地域の新しい観光「ファクトリーツーリズム」として取り組まれています。

令和5年より開催されており、昨年は11月28日～12月1日の間で開催されました。イベント期間中は地域に根差した「モノづくりの現場」や「ファクトリーショップ」、モノづくりを体験する「ワークショップ」を巡ることができ、瀬戸内の自然に育まれた食と歴史を堪能できる貴重な機会となります。

CRASSO に訪れた人は、工場だけではなく、現場の人との交流や、周囲の店舗、観光、食べ物、街の歴史など様々な資源に触れることで、本物の瀬戸内を体験することができます。

## ■オープンファクトリーとは? ~モノづくり現場を見学・体験する新しい観光

日本全国で盛り上がりを見せる「オープンファクトリー」。この取り組みは、作り手が活動し、モノをつくりだしていく現場を公開し、来場者に体験してもらう取り組みです。

普段は一般の方を招き入れることのない仕事現場を公開し、交流をおこなうことで、工場側も自社製品や仕事に対する生の声や新たな気づきを得る機会になります。

来場者にとっては、普段は見ることでできないモノづくりの現場は、魅力あるエンターテインメントであり、モノづくりの価値を知ることができます。その地域で作られたモノに、地域の歴史や背景や、現場見学での体験や、作り手の想いなど、モノづくりのストーリーを知ること、「こんなに手間をかけているのか」「すごいコダワリだ」「さすが!」知的好奇心を刺激してくれる体験につながり、「モノづくりの魅力」や「そこで創られたものを選ぶ理由」を与えてくれます。

## ■ファクトリーツーリズムとは? ~地域の価値を高める取り組み

ファクトリーツーリズムとは、モノづくり現場を来場者に体験してもらうオープンファクトリーを中心に、美しい瀬戸内の自然に育まれた地域の様々な魅力を繋ぎ合わせ、地域の観光コンテンツとしてブラッシュアップすることで、地域の価値を高め、地域全体を活性化する取り組みのことです。

そして、CRASSO は関係する全ての人が主役としています。

まずモノづくりの現場は、「自社の魅力を伝える」ための工夫を凝らし発信力を高めていきます。

最初は「自社」を良く見せようという意識だったものが、近隣の参加企業と一緒に活動し、さらに地域の住民も含めた「地域全体」で盛り上がってくることで地域内での結びつきが強まり、地域全体の価値が高まります。

このファクトリーツーリズムの輪が瀬戸内に広がることで、それぞれの地域の課題を解決するきっかけになると考え、この取り組みを行われています。



CRASSO 事務局より



CRASSO 実行委員会  
事務局長 田中英城さん

毎日前を通っているあの会社がどんな仕事をしているか知っていますか?

CRASSO は地域に根ざした企業がどんな仕事をやっているのか知ってほしい!そんな思いから始まりました。

とはいえ、最初は「自分たちが当たり前に行っている普段の仕事を見に来る人なんて本当にいるの?」とか、「なんでわざわざ休みの日に仕事をせないかんの?」という声もありました。ところが、実際にやってみると来場されたお客様の「えっ!!」とか「すごい!!」という声に社員さんのテンションも上がり、説明時間がオーバーしてしまうこともしばしば。

でもね、本当にモノづくりの現場って面白いんです!普段は完成形しか見ることのできないものがどのような機械で作られていて、どんな工夫がされているのか?それを自分の目で見て、直接職人さんに質問することもできる。そんな機会はCRASSO しかありません。

現在では四国のみならず、関西や関東からもご来場いただけるイベントとなりました。また、2025 年は大阪・関西万博と瀬戸内国際芸術祭が開催される年となります。イベント開催期間中以外でも見学可能な会社がありますので、HP をチェックいただき、是非 2025 年は三木町に遊びに来てください!皆様のご来場お待ちしております♪



CRASSO  
公式 HP

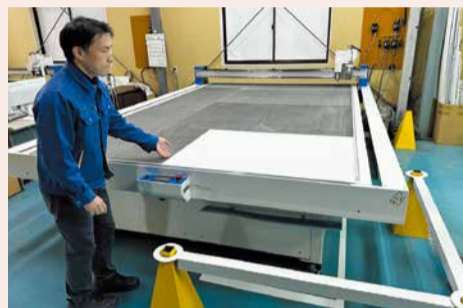
CRASSOは2025年も開催予定!!普段は見ることでできない貴重な職人たちの作業場も、是非その目で体験してみてください!!

## ■三木町では3つの企業が参加!!

今回、実施された CRASSO では、三木町の企業から3社参加されました。普段は見ることのできない貴重なお仕事の現場を、社員自らご案内され、来場者にとって貴重な体験となりました。ここでは、参加された企業をご紹介します。

### 株式会社 グッドワーク

株式会社グッドワークでは1997年の創業以来ダンボールケース、パッケージを製造販売してきました。近年は、ダンボール製の玩具などのオリジナル商品を多数手がけています。その代表例がサッカー日本代表オフィシャルグッズのくみくみボール日本代表 ver です。今回のイベントでは、三木町の文化でもある獅子頭をダンボールで作った「ばかばかアニマルしまい」作りを体験することができました。ダンボールシートのカット、木型でのトムソン加工などの体験もできました。



### 株式会社 高松ホットスタンプ

創業55年になる株式会社高松ホットスタンプ。「あなたのイメージ、カタチにします」をスローガンに掲げ、お客様のニーズに対して、既製品ではなく一から図面を書き、そのお客様だけのサイズ・形状・仕様の製品をこだわりをもってお届けしています。設計・製作・施工を自社一貫で行っており、看板業界では四国一の規模を誇ります。10m以上の自立看板を始め、チェーン店の看板、一方で小さな看板まで幅広く対応しています。「伝えたい想いをデザインし、豊かな社会を共に創ります」。



### 株式会社 コート

皆さんが毎日のように目にする道路標識。

株式会社コートは、『交通安全のパートナー』を合い言葉に道路標識の製作・施工を行って2024年で35周年を迎えました。道路標識の製作工場は全国的にも珍しく、その中でもアルミ基板の工程から製品化までを一貫して行っています。1つ1つ思いを込めて手作りで仕上げる作業風景を見学することができました。



### PICK UP! INTERVIEW

いちご農家さん  
インタビュー



### 感謝と思いやりをこめて 手作業で栽培

今年は約14,000株を機械を入れずに全て手作業で栽培されています。葉を一枚一枚手入れしており、いちごの生育にあわせてきめ細やかな作業をされています。

## 大切なひとに 美味しさを共有したくなる いちごを作る

### みらいいちごさんのいちごは どこで食べられる?

愛情を込めて栽培されたさぬきひめは、農園内での販売のほか、インターネットでも販売中です。また、マルシェやイベントなどでもいちごやいちごを使ったドリンクなどを販売される予定!是非、公式 Instagramなどをチェックしてみてください!



### みらいいちご 香川県木田郡三木町大字井上467番地

2023年4月に独立し、農園「みらいいちご」を立ち上げ。農園名には、「農業やいちごづくりを通して、未来が広がっていく」よう、「手にとってくださる方々が、作られるいちごの可能性を広げてくれる」ように思いを込められています。



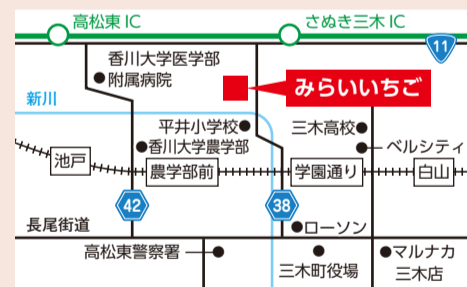
みらいいちご  
Instagram



みらいいちご  
LINE



プロポチ  
(ネット販売所)



### みらいいちご直伝 いちごシロップ

#### ◆材料(360g)

- 冷凍苺 ..... 250g
- グラニュー糖 ..... 125g
- レモン汁 ..... 大さじ1
- 水 ..... 75g

#### ◆作り方

- 1 材料を混ぜて、1日冷蔵庫の中でおく
- 2 お好みの大きさになるようにミキサーに数秒かける
- 3 鍋に2を入れて、10～15分煮詰めて、あくをとったら完成!

炭酸やミルクで割ったり、ヨーグルト、パンケーキにかけて食べても美味しい!



簡単  
アレンジ



### ■みらいいちご

西浦万理(左)さんと森田皆子(右)さん

2022年に三木町に県外から移住され、三木町のいちご農家(SSKの佐々木さん)で修行された後、2023年4月に独立。今年でいちごの栽培は2年目の生産者さんで、香川県オリジナル品種である「さぬきひめ」を栽培されています。

### ■三木町立三木中学校の生徒さんと一緒にインタビューしました!



三木中学校では、自分が希望した職場を訪問し、2日間の職場体験学習を行っています。今回のインタビューでは、三木町役場に

職場体験に来てくれた生徒さんと一緒に、色々お聞きしました!



## いちご農家を始めた理由

### —いちご農家を始めようと思ったきっかけについて教えてください。—

二人:「いちご」にした決め手は、いちごが大好きだから。

森田: どうせ作るなら好きなものを作りたかったからですね。作物を育てるとなると土耕栽培が多い中、いちごは腰をかかめず楽な姿勢で栽培管理ができる高設栽培が可能です。健康に長く農業をする、という観点からもちご農家になろうと思いました。

### —さぬきひめを栽培されているそうですが、何か決め手はあったのでしょうか?—

西浦: さぬきひめは、甘さと酸味のバランス、果汁の多さ、口に入れた後の香りが残るっていうんですね…。今まで食べたいちごの中で一番衝撃的でした。20種類くらい食べ比べをしたけど、一番さぬきひめが美味しいと感じました。

### —ここが負けない!といういちご自慢を教えてください。—

森田: いちごは栽培するのが難しい作物なので、日々試行錯誤しています。ですが、愛情では負けていません! 実は、いちごを育てている中で、毎日いちごに挨拶をしています。「お願いします」「おはようございます」「収穫させてください」など、ありがたい気持ちを込めて、「大きくなれよ」と我が子のことのように愛情を込めて育てています。

西浦: 今期からの取組で、バイオスティミュラント(BS)資材を活用し、微生物の力で植物本来の抵抗力を強くして、病気になりにくいいちごを育てています。そうすることで、使う農薬の使用量を減らせたり、作る人にも食べる人にも優しいなどのメリットがあるんですよ。

## 三木町に移住してみ

### —三木町に移住をしようと思った決め手を教えてください。—

森田: 私は広島出身で、最初は広島でいちご栽培ができないか土地を探していたんですが、いちご栽培に適した農地を見つけられずにいました。そのため県外に視野を広げ、これからいちごが盛り上がる地域で、ゆくゆく自由に販売ができる地域が良かったんです。その中で、香川県は災害が少なく、若いいちごの生産者が活躍されています。

西浦: 師匠である佐々木さんの存在も大きかったです。あとは、フィーリングですね。現地に行ってみて、地域の方とお話をしたり雰囲気を感じる中で、「ここに住みたいね」と二人の意見が一致したのが三木町でした。

### —移住で不安だったこと、大変だったことを教えてください。—

森田: 移住を考えていた時期がコロナ禍だったので、当時は来たくてもなかなか来づらいう時期でした。最初はWEBでコーディネーターさんと移住についてお話をしたけど、実際に来てみないとイメージが湧きづらく、移住を具体的に考えるには難しい時期でした。今まであまり運転をしていなかったもので、三木町に来る際には運転の練習もしました。今では慣れたんですけどね(笑)

西浦: まだお話をしたことがなかった地域の人たちが、私たちのことを先に知ってくれていることがあってビックリしました。

### —三木町に住んでみて感じていることはありますか?—

森田: 実は都会より便利なんです。スーパー、ドラッグストア、本屋さん、100均、クリニックなど生活に必要な施設が一か所に集まっているので、買い物が短時間で終わります。都会だと階段が多くて、歩かなければならないので荷物が大変なんです。三木町はコンパクトで便利です。

西浦: 私は広島でもいちご栽培の研修をしていたんですが、その時は片道一時間くらいかけて出荷していました。今では片道10分程度で出荷に行けるので、時間が有効に使えます。また、気候が温暖で、夜は静かで星が明るい。三木町は獅子舞が盛んで、今の時期(10月取材)は獅子の鉦の音が風物詩ですね。

## 農家をして見えてきたこと

### —三木町でいちご農家をしてみて何か感じることはありますか?—

西浦: 今年で2年目になりますが、特に地域の方に支えられていると感じるようになりました。1年目はいちご栽培をすることに必死で、2年目になり色々なことに目を向けられるようになりました。地域の人で草刈りや掃除を行い、皆で土地を守っています。私たちも地域の一員であるということを強く意識するようになりました。

### —やりがいや大変なところ、気を付けていることを教えてください。—

森田: やりがいについてはたくさんあるんですが、本圃(ほんぼ)の定植作業が非常に手がかかるので、手がかかるほど可愛いです。いちごの苗は、人が手をかけないとすぐにダメになります。私は「いちごの成人式」と言っているんですけど(笑)、いちごたちが自分の力で花を咲かせて実をつけていくのが、我が子の一生を見ているかのような気持ちになります。2023年の11月20日に初めて収穫したんですけど、何ものにも代えがたい「言葉にできない」感情でした。

西浦: いちご栽培は、今やっている作業の結果が2、3か月後にあらわれます。いらない葉っぱを取ったり、摘果をしたりと、収穫がなくても毎日作業があります。一生懸命にやった作業にいちごが応えてくれることにやりがいを感じます。

### —最後に一言お願いします!—

二人: 香川県には素敵ないちご、さぬきひめがあります。私たちの住む三木町には「何もない」、と言う人もいますが、私たちのように県外から移住してきて農業をする魅力もあります。是非一度いちごを買いに三木町に来てみてください。

### —ありがとうございました!—

【新たな魅力発見!】  
三木町ふるさと住民票

# 体験ツアーイベントレポート



## ◆ 体験場所

- ・ 谷川木工芸 ・ 白山神社(祭り・獅子舞)
- ・ IDOMALL ・ 麦縄の里まさご屋する
- ・ 渡邊邸

◆ 参加者 11人

◆ 受託者 琴平バス株式会社



ツアーガイド  
一般社団法人  
三木町観光協会  
会長 串田えみさん



コロナ禍以来、初のリアルツアー開催!!

2024.10/13[SUN]

ふるさと住民票のイベントの中で、毎年三木町にある観光地や施設を紹介し、その地域を知り楽しんでもらう体験ツアーを開催しています。

コロナ禍ではリアルイベントの代わりにオンラインイベントを行っていましたが、2024年秋について三木町に直接お越しいただき三木町の魅力を体験してもらうリアルイベントが開催されました!

ツアー当日、参加者は三木町役場に集合!晴天に恵まれながら最初に向かった先は、三木町下高岡にある谷川木工芸。つい先日まで営業でフランスに行かれていた三代目の谷川清さんに讃岐桶のお話をお聞きしたり、商品を作られる際に出るかんなくずを使ったかんなくずフラワーのワークショップを体験。単純な作業・・・かと思いきや、コツをつかむまでとても難しいお花づくり。参加された皆さんはそれぞれ真剣な眼差しで世界に一つだけの花を作られていました。

次に向かったのは、同じ三木町下高岡にある白山神社。毎年10月に入ると三木町のあちこちで地元のお祭りが開催されていて、今回のツアーが開催された10/13(日)に白山神社でもお祭りが開催中。この時期ならではの三木町の獅子舞を見学いただきました。地域の方のご厚意によって、紅白餅をいただくサプライズもありました。

その後、三木町井戸にある地元のこだわり食材や商品を取り扱うIDOMALLで買い物をし、三木町田中と高松市の境にある麦縄の里の一角、まさご屋するへお食事に向かいます。400年以上の歴史があるそうめんの一大産地、小豆島で創業30年以上、伝統的な手延べ製法を継承するそうめん店です。お食事後は、麦縄の里の始まりやお店について、まさご屋の店主である真砂泰介さんにお話をお聞きしました。

ツアーの最後に向かったのは、昨年、国登録有形文化財建造物の登録がされた三木町下高岡にある渡邊邸。当主の小橋あやみさんに建物・お茶室のご案内をしていただき、それぞれの歴史や旧渡邊家住宅を保存するに至った経緯などをお伺いしました。ご案内いただいた後は、お抹茶とお菓子をいただきながら、本ツアーイベントの感想など、参加者の交流会を行いました。

参加者も笑顔で、三木町を満喫するひと時となりました。



- ・ 職人のこだわりや専門的なお話は滅多に聞かしてもらえないので良い機会になりました。
- ・ 目、耳で印象に残る舞でした。子どもから高齢者まで全員一心不乱に見つめていて、その中に自分があるのが良かったです。
- ・ そうめん2種類はなかなか美味しかった。ナポリタンは意外。
- ・ 古いものが大事にされている感じが良かったです。小橋さんの人柄も好感。

皆様のご参加、ありがとうございました!!

参加者が感じた  
三木町の  
魅力

三木町の魅力盛りだくさん!! <<インタビュー>>

# 香川の小さなドイツ村 グリュースゴット



香川県の三木町にあるドイツの製菓やハムソーセージを扱う工房、「**小さなドイツ村 グリュースゴット**」。お店は富田さんご夫婦で経営されていて、路面店を持たないインターネット販売専門店です。ご夫婦ともに三木町出身ではなく、埼玉と大阪からドイツで修行後、香川県に移住されました。2015年に三木町で菓子工房を始動し、その後にソーセージ工房が合流。製菓担当の裕子さんはドイツにて**製菓のゲゼレ資格(スペシャリストとしての国家資格)**を取得。ハムソーセージ担当の秀樹さんは、同じくドイツにて**食肉のマイスター資格(ゲゼレ資格を取得後、より高い専門知識はもちろん経営学や教育学を含む資格)**を取得。ドイツ菓子やドイツソーセージをなるべく地元の食材を使いながら、丁寧に作り続けることをモットーに、白山の見える工房で日々製造されています。そんなお二人が、新たに地元の魅力の一つに詰めたコラボの商品を作られました。三木町の魅力が詰まったこだわりの逸品について、インタビューさせていただきました!

## 【三木町の魅力をギュッと一つに詰め込んだ4種のクッキー】 地元コラボの「まんて缶` (がん)」

— コラボ商品、「まんて缶`」について教えてください。

「まんて缶`」は、三木町をモチーフに高松市でクレヨン画で活躍されているイラストレーターの「うにのれおな」さんにデザインしていただいた可愛いスリーブ入りのクッキー缶です。中身も三木町産にこだわった、「女峰いちご」、「黒豆」、「ぎょうせん飴」、「さくら卵」を使用し、工房で丁寧に焼き上げた4種の焼き菓子が入っています。

— 作ろうと思ったきっかけはありますか？

地方でお菓子を作っている小さなところなので、お菓子を作ることができても、大手のメーカーさんとは違ってなかなかお客様に物語を伝えるデザインを出すことができないという悩みがありました。県内には色んなものがあって、色んな可能性があると思っています。香川県はアートの県なので、クリエイターさんと何か物語を組めないか、という思いがありました。マルシェやイベントなどで知り合って交流をしている県内デザイナーさんと「何か一緒にできることはないか?」と思っていた中、当時コロナ禍で、香川県物価高騰等対策緊急支援事業給付金という助成金を知り、活用してみんなで一緒に光る何かを作りたいと思いました。コラボでは香川県で活躍する3人の女性デザイナーにそれぞれ1種類ずつのスリーブデザインを依頼していて、この「まんて缶`」はコラボ第2弾になります。第1弾は「ドイツ」、第2弾は「三木町」、第3弾は「瀬戸内」をイメージして製作していて、印刷会社さんも町内業者さんをお願いしています。

— こだわりポイントは？

スリーブは、うにのれおなさんが三木町をイメージして、シンボルである「白山」や町花である「シャクヤク」、町推奨花木である「キンモクセイ」、町記念樹である「メタセコイア」、里山やそこに住む動物、そして獅子舞など、「三木町」らしさを集めて柔らかなクレヨン画で可愛くデザインしてくれました。出来上がったスリーブから、今度は中身に何を詰めようか、とイメージを膨らまして、メモから案を考えていきました。「鹿庭の農家さんの黒豆きなこを使いたい」、「今では珍しくなった女峰いちごを知って欲しい」、「三木町では身近なぎょうせん飴を使いたい」といった風に、地元「良いもの」があるから、ドイツの伝統製菓を通して、再発見して欲しいという気持ちで4種の焼き菓子を考えました。

— 最後にふるさと住民の皆さんに一言お願いします!

地元の「良いもの」を、まずは町民の方に気づいてもらいたいと思っています。地域の共有財産として、イベントやお祭りなどで地域の良いところに気づいてもらう機会の、その中の一つとなれたら良いと思います。小さい製造者が生きづらくなっている世の中ですが、みんな頑張って、何か光るものを作りたいです。三木町には良いものがいっぱいあるから、形を変えて皆さんに知って欲しいと思っています。小さいところだから、できることがあります。今回のコラボ商品でも、三木町の方同士、みんな気持ちよくコラボをしてくれました。三木町の魅力が「まんてがん」詰まっている「まんて缶`」を、是非三木町に思いを馳せて、味わってみてください。

— ありがとうございます!



メモには素敵なアイデア案がびっしり!



三木町の魅力をギュッと集めた「まんて缶`」は、2024年10月26日(土)に開催された「獅子たちの里 三木まんて願。」で先行販売されました。現在は、三木町井戸にあるIDOMALLにて購入できるほか、ふるさと納税返礼品としても登場予定です。三木町の魅力が詰まったお菓子箱。今後の動向が気になる一品です!!

**グリュースゴット**

<https://gruess-gott.kagawa.jp/>



HP



ふるさと納税  
まんて缶`  
(ふるさとチョイス)

### 【お詫びと訂正】KIT\*MIKI2024年夏号掲載記事の訂正について

前号(KIT\*MIKI2024夏号)の6ページの「ちょっと気になる“2024年三木町”トピックス!」欄の「本町初!登録有形文化財(渡邊邸)」掲載内容に一部誤りがございました。お詫びして訂正いたします。訂正箇所は以下のとおりです。

- (正) 国登録有形文化財建造物 (誤) 国登録有形文化財構造物
- (正) 国登録有形文化財(建造物) (誤) 国登録有形文化財(構造物)



審査員一同

### 行くぞ、大阪・関西万博!! SHISHI-1 グランプリ 開催!!

#### 意気込みを語る各代表者



朝倉獅子連

長生獅子連

山大寺獅子連

鹿伏獅子連



2024年10月26日(土)の「獅子たちの里 三木まんで願。」メインステージにて、大阪で開催される2025年日本国際博覧会の香川県PRステージに出演する小獅子連の選考会である「SHISHI-1グランプリ」が開催されました。

事前に予選会を行い、7組の中から勝ち上がった4組が三木まんで願。に登場。会場の皆さんも審査員の一人として投票に参加いただきました。

そして、白熱の獅子バトルの末、見事朝倉獅子連の皆さんが優勝に輝きました。

いざ、万博!三木町を代表して、朝倉獅子連の華麗な舞が、夢の舞台へ飛び立ちます。

4月1日(月)からKIT\*MIKIホームページにて応募開始(応募期間:2025年4月1日(火)9時~2025年6月6日(金)17時)

### 三木の「ええもん」もらえるキャンペーン



第17弾

年2回 抽選 10組

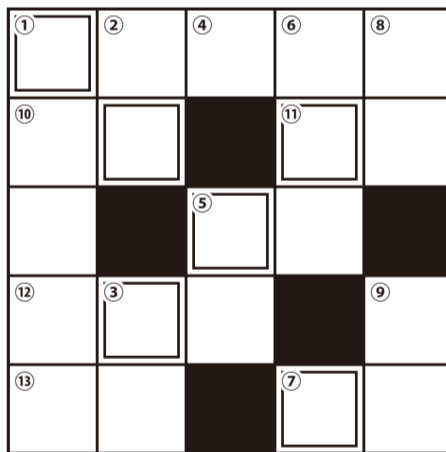
グリュースゴットについて詳しくはこちら →

<https://gruess-gott.kagawa.jp>

### グリュースゴットの『まんで缶 & 塩キャラメルプレッツェル詰め合わせ』をプレゼント!

第17弾(2025年3月分)は、本紙P6で紹介したグリュースゴットの『まんで缶 & 塩キャラメルプレッツェル詰め合わせ』をご用意しました。グリュースゴットのドイツ菓子は本場ドイツで修行を積んだ職人が伝統的ドイツ菓子の製法を心がけながら、香川県産の材料を中心に再現することをモットーとして1つ1つ心を込めて丁寧に作られています。三木町の魅力を集めた限定スリーブでお届けします。是非この機会にご賞味ください!

KIT\*MIKIサイト内のエントリーフォームにパズルの答えをご入力・ご応募ください。



を並び替えてできる言葉はなんでしょう?

ヒント:三木町の町記念樹。本紙6ページを見てね。

□ □ □ □ □ □ □ □

エントリーフォームはこちら

こちらのQRコードからご覧いただけます。

<https://www.town.miki.lg.jp/kit-miki/form2/>

(はがきでの応募)下記住所宛に、お名前・ご住所・電話番号・パズルの答えを明記の上ご応募ください。

Wチャンスキャンペーン!! 抽選 3組

#### 【タテのカギ】

- 三木町南西部・小養地区にある雄滝・雌滝のふたつの滝
- 節分に鬼に向かって投げます
- 判。はんこ
- 物が並んでいるときの空間。あいだ。
- 「吾子」の読み方。わが子。自分の子
- 〇〇世間に鬼はなし
- 2025年開催、  
○戸内国際芸術祭開催
- 英語でアイランド
- 百人一首の歌の一つ  
「大江山いく野の道の遠ければまだ〇〇も見ず天橋立」

#### 【ヨコのカギ】

- こまを回すこと
- 〇〇ブス一万尺
- 忍法「うつ〇〇の術」
- 〇に落ちない
- 2024年新5千円札に描かれた津田〇〇子
- うどんの〇〇。1食分をまとめた麺の塊
- 三木町で開催されるgreenoutmeetingの恐竜レースの会場は〇〇の森
- 原子番号79の元素。元素記号はAu



今回は、なんとWチャンス!ええもんキャンペーンに応募いただいた方で抽選が外れた方の中から、抽選3組に、三木町70周年記念グッズ(タオル・バッグ)をプレゼント!!

### 編集後記 (スミダ)

雪がひらひらと舞う頃、この編集後記を書いています。ふるさと住民の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。昨年は三木町制施行70周年を迎え、SHISHI-1グランプリも開催されました。三木町には約40連の小獅子が伝統芸能としてそれぞれの自治会などで継承されていますが、その姿や鉦の音、舞い方は千差万別です。三木町には大きい獅子(大獅子)が4頭いますので、一般的なサイズの獅子が「小獅子」と言われていますが、他の自治体では「小」という字がつくと、「子ども獅子」を指すことが多いということを知り、とても驚きました。そんな三木町の小獅子ですが、この会報紙巻末にも掲載している通り、2025年に開催される大阪・関西万博で、SHISHI-1グランプリを勝ち抜いた朝倉獅子連の皆さんが三木町を代表して獅子舞を披露します。他県で本町の獅子舞を見る機会は滅多にないと思いますので、万博に参加される方は是非三木町のステージをご覧ください。また、今回は初の試みとして、「ええもん」もらえるキャンペーンの当選者がWチャンスとなっております。三木町の魅力をギュッと集めたお菓子や記念グッズを是非この機会にご応募いただき、三木町を身近に感じていただければ幸いです。